

**Denka**

Possibility  
of  
chemistry

2023年度 第2四半期  
決算説明会資料  
(2024年3月期)

証券コード：4061

デンカ株式会社

2023年11月8日

## 1 2023年度（2024年3月期）第2四半期 決算概要

① 連結サマリー	(前年比・8月予想比)	03
② 営業利益 増減要因	(前年比)	04
③ セグメント別内訳	( " )	05
④ セグメント別増減要因	( " )	06-09
⑤ セグメント別内訳	(8月予想比)	10

## 2 2023年度（2024年3月期）業績予想

① 連結サマリー	(期初予想比・前年比)	12
② 市場見通し		13
③ 営業利益 増減要因	(期初予想比)	14
④ セグメント別内訳	( " )	15
⑤ セグメント別増減要因	( " )	16-19
⑥ セグメント別投資・償却費・研究費		20
⑦ 株主還元・ROE		21

## 3 2024年度に向けた業績改善策 22-30

品質・安全に関する今後のスケジュール	31
(参考) 通期：セグメント別内訳（前年比）	32
(参考) 四半期推移（セグメント別）	33

# 2023年度第2四半期 決算概要 (2024年3月期)

## ■ 前年比大幅減益（8月予想から上振れ）

単位：億円	2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	(前年比)	2023年度 上期 8月予想
売上高	2,029	<b>1,914</b>	△ 116	1,900
営業利益	183	<b>105</b>	△ 78	90
営業利益率	9.0%	<b>5.5%</b>	△ 3.6%	4.7%
経常利益	170	<b>81</b>	△ 89	70
純利益	143	<b>66<sup>※</sup></b>	△ 78	50
為替レート (円/\$)	131.6	<b>139.9</b>		138.7
国産ナフサ (円/Kリットル)	82,850	<b>65,450</b>		62,600

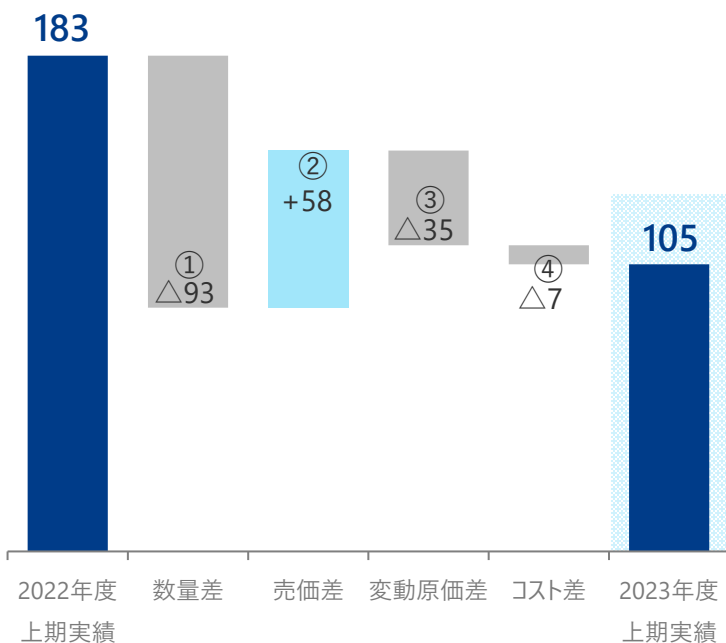
※ 政策保有株式売却益+12億円

## ■ 需要減少による数量差のマイナスが大きく、大幅減益

営業利益 **105**億円 前年比  $\triangle$ 78億円

## 営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



## ①数量差 :

(マイナス)

クロロプレンゴム：工業、接着剤用途は需要減少、

自動車用途は需要が回復傾向も市中在庫の調整が続いている

球状アルミナ・球状シリカ・高機能フィルム：民生（スマホ・PC・家電）向け需要が減少

アセチレンブラック：高圧ケーブル向け工事遅れにより一時的に需要が減少

(プラス)

インフルエンザの流行によるコロナ・インフル同時検査キットの需要増

## ②売価差 : (為替影響 + 58含む)

(プラス)

クロロプレンゴム：昨年度段階的に実施した値上げの効果

(マイナス)

スチレン系製品：原燃料価格下落に伴う価格改定

③変動原価差 : (為替影響  $\triangle$ 36含む)

原燃料価格が下落した一方、為替影響によりマイナス

## ④コスト差

電子・先端プロダクツの増産体制構築や販売体制強化による費用増加

米国DPEでの修繕費・労務費など増加

※ DPE (Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロプレンゴム製造子会社)

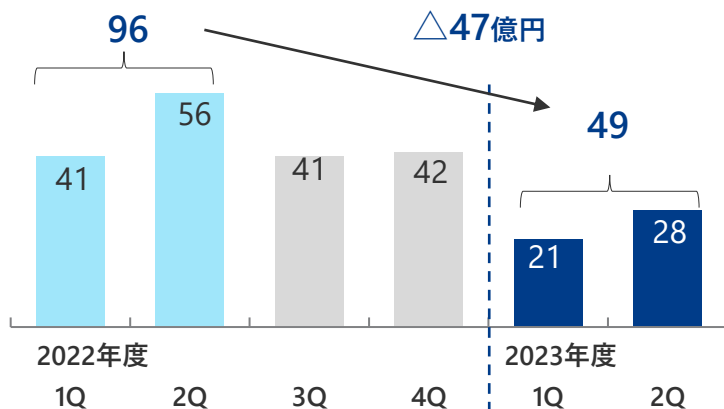
## ■ 電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューションが前年比大幅減益

売上高	単位：億円	2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	増減		数量差		売価差	
電子・先端プロダクツ		475	417	△	58	△	85	+	27
ライフソリューション		219	222	+	3	+	3	+	0
エラストマー・インフラソリューション		629	572	△	57	△	121	+	64
ポリマーソリューション		636	615	△	22	+	12	△	34
その他 / 消去差		70	88	+	18	+	18		-
合計		2,029	1,914	△	116	△	173	+	58

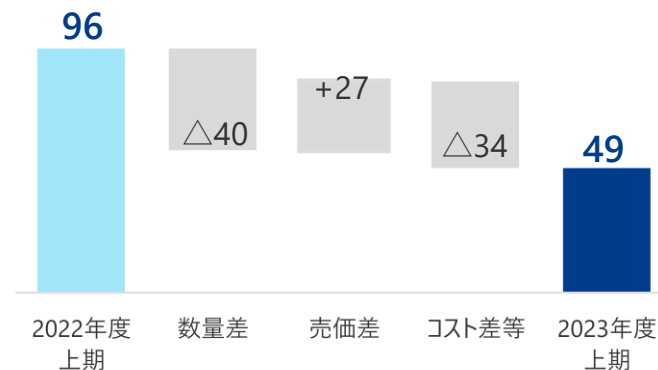
営業利益	単位：億円	2022年度 上期実績	2023年度 上期実績	増減		数量差		売価差		コスト差等	
電子・先端プロダクツ		96	49	△	47	△	40	+	27	△	34
ライフソリューション		65	66	+	1	+	5	+	0	△	5
エラストマー・インフラソリューション		13	△16	△	29	△	53	+	64	△	41
ポリマーソリューション		△2	△3	△	1	△	6	△	34	+	38
その他 / 消去差		10	10	△	1	+	0		-	△	1
合計		183	105	△	78	△	93	+	58	△	42

## ■ 昨年度3Q以降の民生（スマホ・PC・家電）向け需要減が大きく、大幅減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)



単位：億円

製品別販売動向・コスト

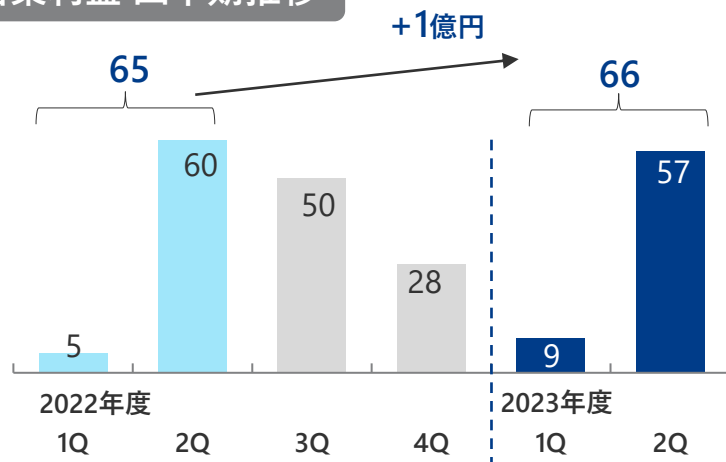
※コスト差：増産体制構築や販売体制強化による費用増加

- 球状アルミナ
  - xEV向けは需要が回復傾向も、民生向けは、昨年度3Qに急落した需要が、今年度上期にも継続し、全体では出荷が前年を大きく下回る
- 球状シリカ
  - 昨年度3Qに急落した民生向け需要が、今年度上期にも継続し、出荷が前年を下回る
- 高機能フィルム
  - 昨年度3Qに急落した民生向け需要が、今年度に入り電子部品用途では市中在庫の消化が進み、徐々に回復も、半導体用途では依然低調が続く、前年比では出荷が下回る
- アセチレンブラック
  - xEV向けは需要が回復傾向も、昨年度まで堅調に需要が拡大してきた高圧ケーブル向けは、欧州向けは工事遅れにより一時的に需要が減少、中国向けも需要低調により、全体では出荷が前年を下回る
- セラミックス基板  
(窒化珪素、窒化アルミ)
  - 電鉄向けは前年並みも、xEV向けは、半導体不足による自動車減産影響を受けた昨年度上期から、需要が徐々に回復し、出荷が前年を上回る

## インフルエンザの流行による

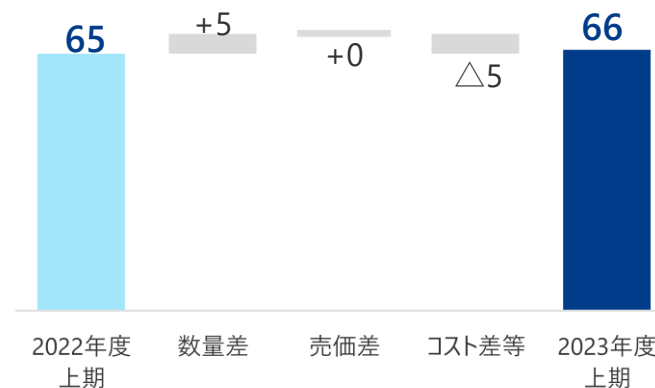
コロナ・インフル同時検査キット（コンボキット）の需要拡大により、前年に引き続き好調

## 営業利益 四半期推移



## 営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



## 製品別販売動向・コスト

## インフルエンザワクチン

- 計画通り9月より出荷を開始、概ね前年並みの出荷

新型コロナウイルス  
抗原迅速診断キット

- 新型コロナ検査キットの出荷が前年を下回るも、インフルエンザの流行により、コロナ・インフル同時検査キット（コンボキット）の出荷が前年を上回り、増収増益
- 5類引下げ後も価格維持

## 臨床試薬

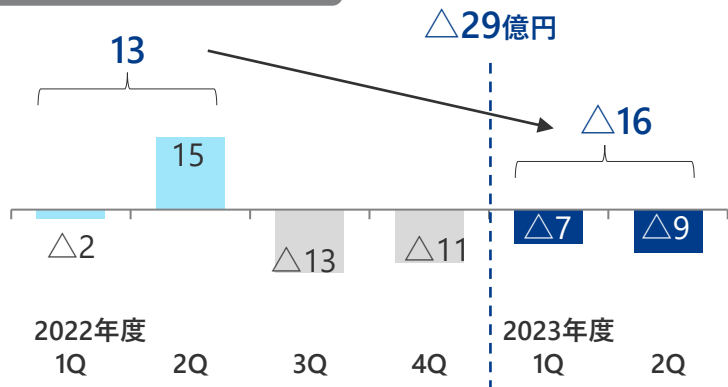
(炎症マーカー等)

- 概ね前年並みの出荷



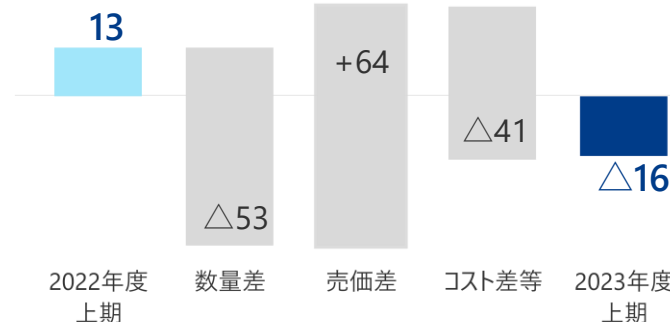
■ クロロプレングムは値上げ効果があるも、需要低調や修繕費・労務費などの増加により、減益

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円

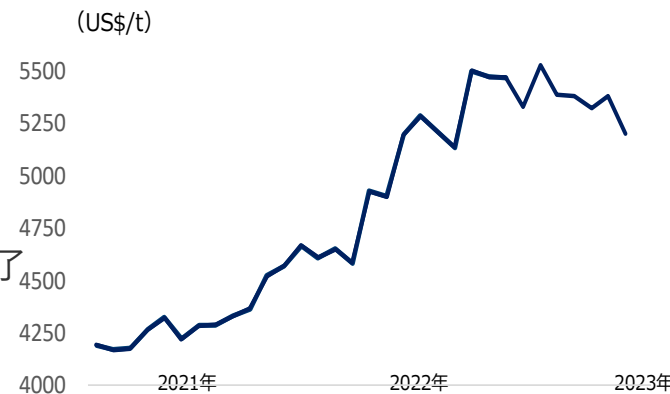


※コスト差：米国DPEでの修繕費・労務費などが増加

製品別販売動向・コスト

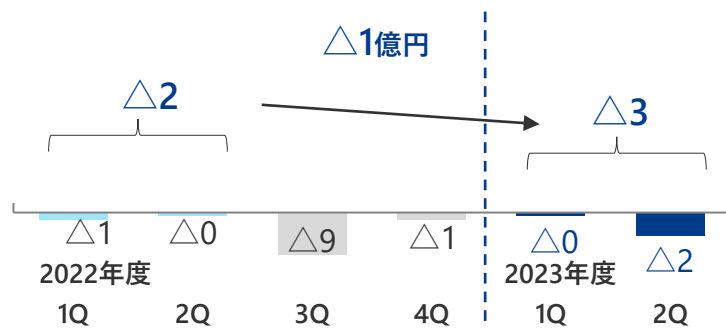
- クロロプレングム
  - 昨年度3Q以降、工業、接着剤用途は需要低調、自動車用途は需要が回復傾向も市中在庫の調整が続き、出荷が前年を下回る
  - 昨年度に実施した段階的な値上げが寄与
- 特殊混和材
  - 概ね前年並み
- セメント
  - 2,300円/tの値上げは完了(昨年9月末時点)
  - 3,000円/tの追加値上げは進捗が遅れるも、7月末では概ね完了
  - 石炭価格が下落  
(2022年度上期：\$ 399/t ⇒ 2023年度上期：\$ 154/t)

【通関統計】クロロプレングム（ドライ+ラテックス）輸出単価



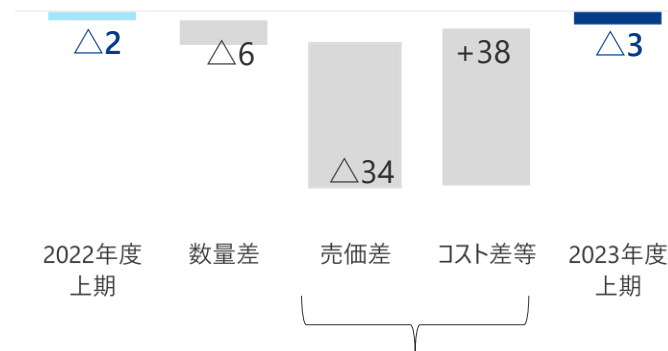
■ スプレッドは維持、固定費はスチレンモノマープラントの非定修年により減少するも、  
 需要が引き続き低迷し、概ね前年並み

営業利益 四半期推移



営業利益 差異分析(前年比)

単位：億円



スプレッドは維持、  
 固定費はスチレンモノマープラントの非定修年により減少

製品別販売動向・コスト

- MS樹脂
  - 昨年度期初から低調だったPCのモニター向け導光板用途は、3Qに底を打ち、回復基調が今年度にも継続し、出荷が前年を上回る
- AS・ABS・透明樹脂など
  - 昨年度3Qに悪化した民生や化粧品容器、雑貨などの需要が、世界経済の全般的な低迷により、今年度にも継続し、全体では出荷が前年を下回る
- 食包シート・容器
  - 概ね前年並みの出荷
- Toyokalon
  - アフリカ・米国市場ともにインフレによる購買力低下が昨年度上期から続き、概ね前年並みの出荷

## ライフバージョンがコロナ・インフル同時検査キット（コンボキット）の需要拡大により、 8月予想より上振れ

売上高 単位：億円	2023年度 上期 8月予想	2023年度 上期実績	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	400	417	+ 17	+ 12	+ 5
ライフバージョン	200	222	+ 22	+ 20	+ 2
エラストマー・インフラソリューション	575	572	△ 3	△ 9	+ 7
ポリマーソリューション	650	615	△ 35	△ 41	+ 5
その他 / 消去差	75	88	+ 13	+ 13	-
合計	1,900	1,914	+ 14	△ 5	+ 18

営業利益 単位：億円	2023年度 上期 8月予想	2023年度 上期実績	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	40	49	+ 9	+ 2	+ 5	+ 2
ライフバージョン	50	66	+ 16	+ 13	+ 2	+ 2
エラストマー・インフラソリューション	△15	△16	△ 1	△ 4	+ 7	△ 4
ポリマーソリューション	5	△3	△ 8	△ 8	+ 5	△ 5
その他 / 消去差	10	10	△ 0	+ 1	-	△ 2
合計	90	105	+ 15	+ 4	+ 18	△ 7

2023年度(2024年3月期)  
業績予想

## ■ 期初予想から下方修正

単位：億円	2023年度 期初予想	2023年度 今回予想	期初 予想比	2022年度 実績	前年比
売上高	4,300	<b>4,000</b>	△ 300	4,076	△ 76
営業利益	330	<b>190</b>	△ 140	323	△ 133
営業利益率	7.7%	<b>4.8%</b>	△ 2.9%	7.9%	△ 3.1%
経常利益	290	<b>120</b>	△ 170	280	△ 160
純利益	220	<b>110</b>	△ 110	128	△ 18
為替レート (円 / \$)	130.0	<b>143.0</b> 上期 139.9 下期 145.0		135.1	
国産ナフサ (円/Kリットル)	64,200	<b>70,300</b> 上期 65,450 下期 75,200		76,500	

## ■ 民生、xEV、クロロプレングムの需要が想定を下回る

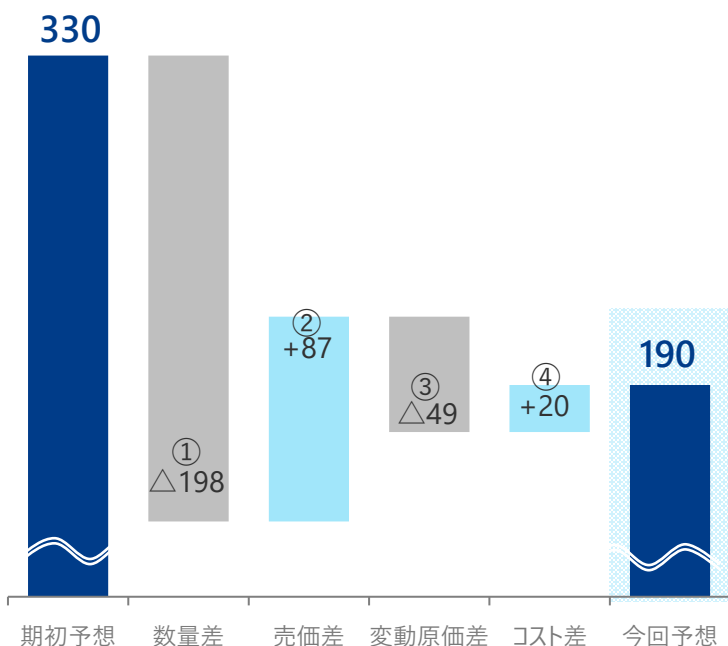
(市場動向)	期初予想	今回予想
半導体	車載向け 2023年末に向けて徐々に回復 民生向け 2Q以降の緩やかな需要回復	車載向け (変更なし) 民生向け メモリ以外は下期以降の緩やかな回復、 メモリの回復は24年度以降
xEV	インフレ要因等のマイナス影響を受けるも、市場拡大が加速	想定より市場拡大の伸び率が鈍化
新型コロナウイルス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2回程度/年の流行を予測</li> <li>・病院検査需要は継続も、自治体検査縮小</li> <li>・今年度の保険点数の見直しはなし</li> </ul>	(変更なし)
クロロプレングム	上期以降、需要が緩やかに回復 下期には22年度上期比90%水準まで回復	自動車用途の需要は回復傾向も、想定以上に市中在庫の水準が高く、工業、接着剤用途も需要低迷が継続 24年度以降、工業、自動車用途を中心に緩やかな回復
食品容器	外食と比べ割安感のある中食市場の需要増加	食品価格が更に高騰し、中食市場の需要が下振れる

## ■ 期初予想で想定していたクロロprenゴムや民生向け製品の需要回復遅れにより、大幅減益の見通し

営業利益 **190**億円 期初予想比  $\Delta$ 140億円

## 営業利益 差異分析(期初予想比)

単位：億円



## ①数量差：

クロロprenゴム：工業、接着剤用途は需要回復遅れ、  
自動車用途は需要が回復傾向も市中央在庫の調整が続いている  
半導体関連製品・機能樹脂：民生（スマホ・TV・PC・家電）向けは需要回復遅れ

## ②売価差：(為替影響+143含む)

クロロprenゴム：他社品との競争激化により、販売価格が下落  
スチレン系製品：原燃料価格下落に伴う価格改定

③変動原価差：(為替影響 $\Delta$ 93含む)

原燃料価格下落、他

## ④コスト差

収益確保のため全社でコストダウン実施  
米国DPEは修繕費・労務費などコストが更に悪化

※ DPE (Denka Performance Elastomer LLC：米国クロロprenゴム製造子会社)

■ ライフイノベーションの増益を見込むも、  
電子・先端プロダクツ、エラストマー・インフラソリューション、ポリマーソリューションが大幅減益の見通し

売上高 単位：億円		2023年度 期初予想	2023年度 今回予想	増減	数量差	売価差	
電子・先端プロダクツ		1,000	900	△ 100	△ 128	+ 28	
ライフイノベーション		450	450	± 0	△ 11	+ 11	
エラストマー・インフラソリューション		1,300	1,200	△ 100	△ 110	+ 10	
ポリマーソリューション		1,400	1,300	△ 100	△ 137	+ 37	
その他 / 消去差		150	150	± 0	-	-	
合 計		4,300	4,000	△ 300	△ 387	+ 87	

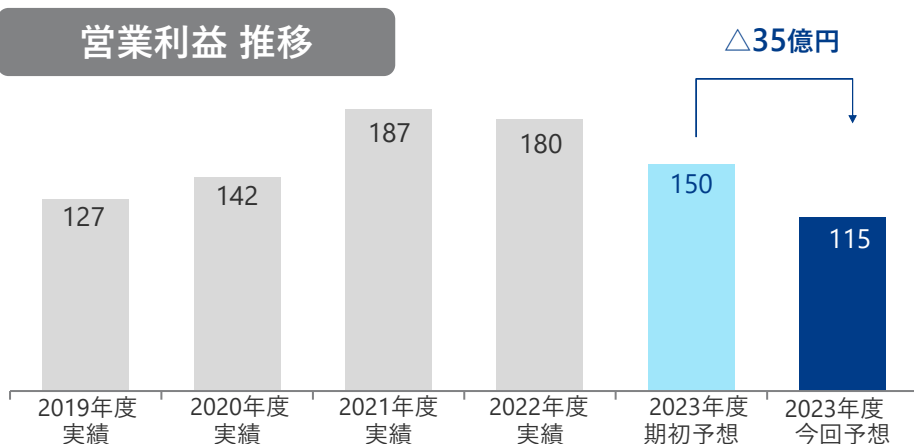
  

営業利益 単位：億円		2023年度 期初予想	2023年度 今回予想	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ		150	115	△ 35	△ 72	+ 28	+ 9
ライフイノベーション		95	125	+ 30	+ 5	+ 11	+ 14
エラストマー・インフラソリューション		25	△75	△ 100	△ 93	+ 10	△ 18
ポリマーソリューション		45	10	△ 35	△ 38	+ 37	△ 34
その他 / 消去差		15	15	± 0	-	-	-
合 計		330	190	△ 140	△ 198	+ 87	△ 29

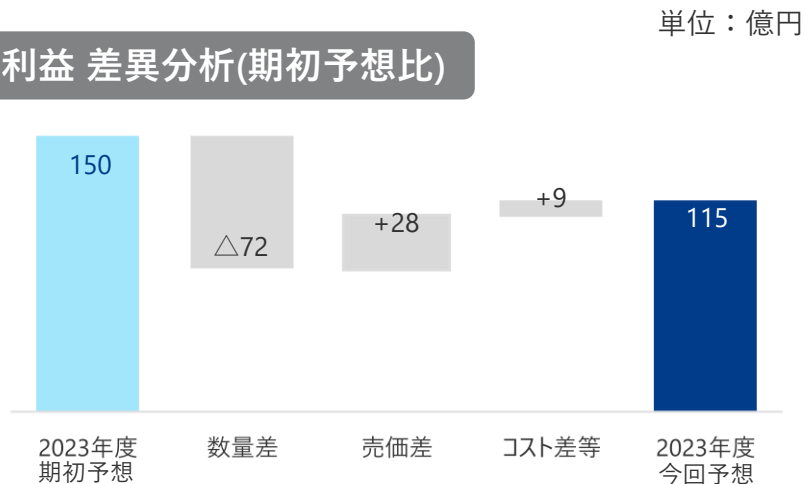


## ■ 需要が期初想定を大きく下回り、大幅減益の見通し

営業利益 推移



営業利益 差異分析(期初予想比)



### 市場見通しと販売動向

(市場)	期初予想	今回予想
半導体	車載向け：2023年末に向けて徐々に回復 民生向け：2Q以降の緩やかな需要回復	車載向け：変更なし 民生向け：メモリ以外は下期以降の緩やかな回復、メモリの回復は24年度以降
xEV	インフレ要因等のマイナス影響を受けるも、市場拡大が加速	想定より市場拡大の伸び率が鈍化
再生可能エネルギー(高圧ケーブル)	欧州大型プロジェクトの一部遅れ	欧州大型プロジェクトの一部遅れに加え、中国向けでも需要が減少

### 販売動向

球状シリカ	：民生向けの需要が想定を大きく下回り、下振れの見通し
高機能フィルム	
球状アルミナ	：民生向けの需要が想定を大きく下回り、xEV向けも需要が想定を下回り、下振れの見通し
セラミックス基板(窒化珪素、窒化アルミ)	：主要ユーザーの需要堅調により、期初予想並み
アセチレンブラック	：xEV向け、高圧ケーブル向けの需要が想定を下回り、下振れの見通し

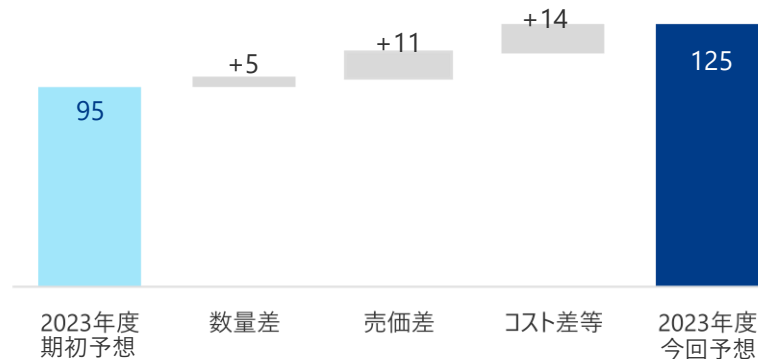
## ■インフルエンザの流行によるコロナ・インフルの同時検査キット（コンボキット）の需要増や、5類引下げ後の検査キットの価格維持により、増益の見通し

単位：億円

### 営業利益 推移



### 営業利益 差異分析(期初予想比)



※コスト差：研究開発費減少

### 市場見通しと販売動向

(市場) 期初予想 今回予想

**インフルエンザ**  
 ・接種数は流行動向や、コロナワクチンの接種回数見直しにより、例年通りに  
 ・昨シーズンからの流行が、収束せず足元でも継続、流行に伴う接種時期の早期化

**新型コロナウイルス**  
 ・2回程度/年の流行を予測  
 ・病院検査需要は継続も、自治体検査縮小  
 ・保険点数の見直しはなし  
 (変更なし)

**臨床試薬 (炎症マーカー等)**  
 中国市場の需要回復により、コロナ前の2019年並に  
 (変更なし)

### 販売動向

**インフルエンザ ワクチン**  
 : 想定通り9月より出荷開始  
 接種時期の早期化傾向に対応して、消化率を考慮し、出荷本数を1,100万本から1,000万本へ見直し

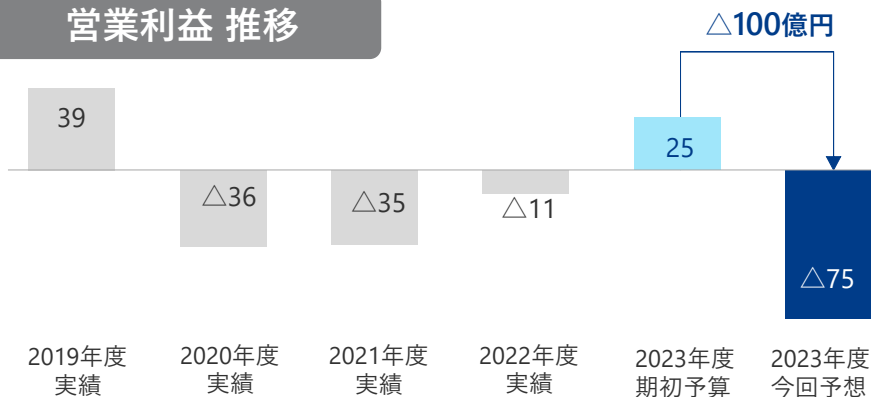
**抗原迅速診断キット**  
 : ・インフルエンザの流行により、コロナ・インフルの同時検査キット（コンボキット）の出荷増を見込む  
 ・5類引下げ後の検査キットの価格維持

**臨床試薬 (炎症マーカー等)**  
 : 期初予想並み

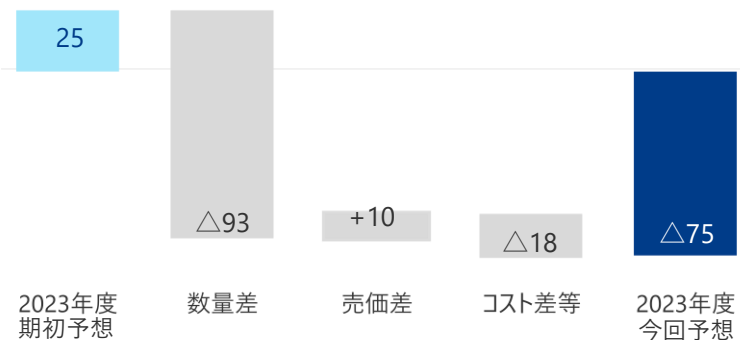
■ クロロプレングムの需要低迷が継続、売価も下落、米国DPEでのコストも更に悪化し、大幅赤字の見通し

単位：億円

営業利益 推移



営業利益 差異分析(期初予想比)



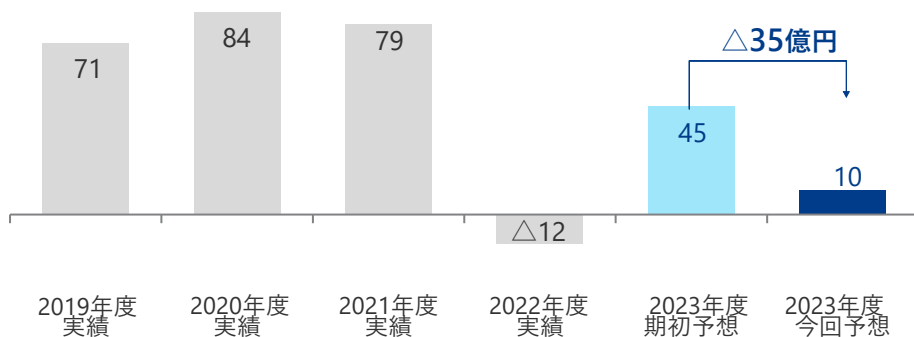
市場見通しと販売動向

※コスト差：米国DPEは修繕費・労務費などコストが更に悪化

(市場)	期初予想	今回予想	販売動向
クロロプレングム	上期以降、需要が緩やかに回復 下期には22年度上期比90%水準まで回復	自動車用途の需要は回復傾向も、想定以上に水準が高い市 在庫の調整が続く、工業、接着 剤用途も需要低迷が継続 24年度以降、工業、自動車用 途を中心に緩やかな回復	需要低迷が長期化し、数量が大幅に下振れる 見通し 他社品との競争激化により、販売価格が下落
特殊混和材	国内投資（民間・政府）増や 中国での需要が回復	国内投資は政府を中心に堅調 中国は需要低調も、欧州・東南 アジアは徐々に需要回復	期初予想並み
セメント	石炭価格：209ドル/t想定 3,000円/tの追加値上げは上期 より段階的に寄与	石炭価格：145ドル/t想定 3,000円/tの追加値上げは進捗が遅 れるも、7月末までに概ね完了	石炭価格は下落も、値上げの寄与が遅れる

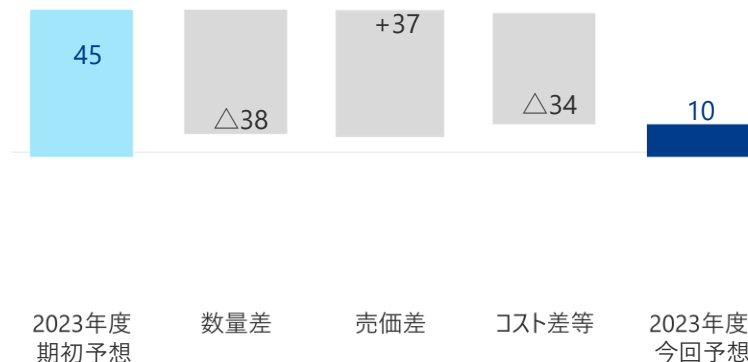
## ■ 需要が期初想定を大きく下回り、期初予想を大きく下回る見通し

### 営業利益 推移



### 営業利益 差異分析(期初予想比)

単位：億円



### 市場見通しと販売動向

(市場) 期初予想 今回予想

(市場)	期初予想	今回予想
民生 (TV・PC・家電ほか)	2Q以降の緩やかな需要回復	需要回復が遅れる
化粧品容器、雑貨など	2Q以降の緩やかな需要回復	需要回復が遅れる
食品容器	外食と比べ割安感のある中食市場の需要増加	食品価格が更に高騰し、中食市場の需要が下振れる
Toyokalon	アフリカ・米国市場ともに需要が回復する見通し	アフリカ・米国市場ともに需要回復が遅れる

販売動向

MS樹脂	PCモニター向け、照明向け導光板用途、その他用途（化粧品容器など）ともに需要回復が遅れ、出荷が下振れる見通し
AS・ABS・透明樹脂など	民生や化粧品容器、雑貨などの需要回復が遅れ、出荷が下振れる見通し
食包シート・容器	下振れの見通し
Toyokalon	下振れの見通し

## ■ 上期は前年並、通期は期初予想から変更なし

### 上期（前年比）

	投資		減価償却費		研究開発費	
	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度	2022年度	2023年度
	上期実績	上期実績	上期実績	上期実績	上期実績	上期実績
単位：億円						
電子・先端プロダクツ	70	82	38	44	25	28
ライフイノベーション	5	14	20	19	20	23
エラストマー・インフラソリューション	48	46	50	43	17	15
ポリマーソリューション	47	23	23	25	13	12
その他 / 消去差	-	-	2	2	-	-
合計	170	165	134	134	75	78

### 通期（期初予想比）

	投資		減価償却費		研究開発費	
	2023年度	2023年度	2023年度	2023年度	2023年度	2023年度
	期初予想	今回予想	期初予想	今回予想	期初予想	今回予想
電子・先端プロダクツ	200	変更なし	90	変更なし	50	変更なし
ライフイノベーション	70	変更なし	40	変更なし	60	変更なし
エラストマー・インフラソリューション	130	変更なし	90	変更なし	30	変更なし
ポリマーソリューション	70	変更なし	50	変更なし	20	変更なし
その他 / 消去差	-	変更なし	5	変更なし	-	変更なし
合計	470	変更なし	275	変更なし	160	変更なし

## ■ 大幅な下方修正が避けられない状況のため減配

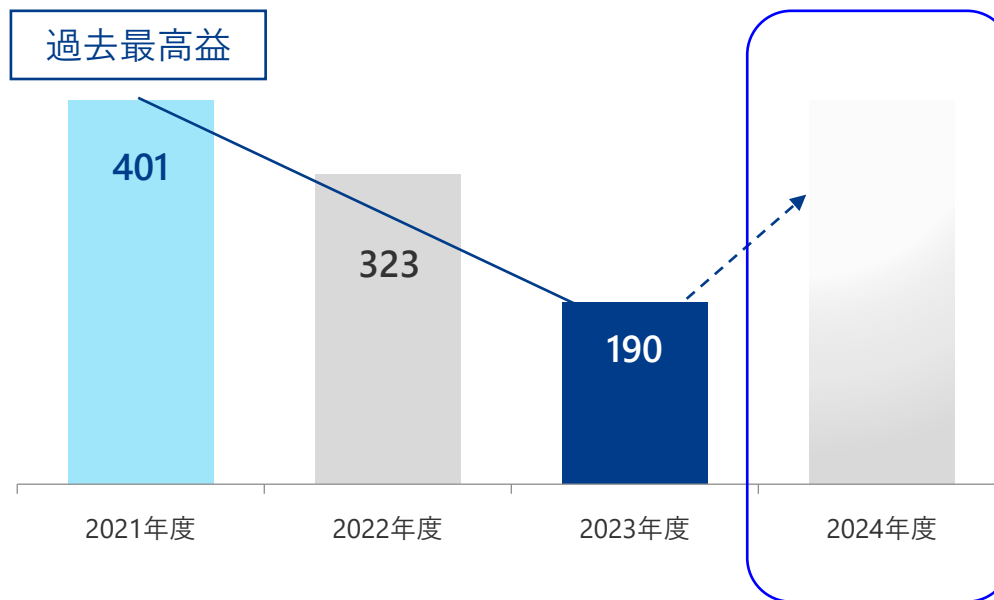
		2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2022年度 実績	2023年度 通期予想
当期純利益	(億円)	250	227	228	260	128	110
1株当たり配当*	(円/株)	120.0	125.0	125.0	145.0	100.0	100.0 (中間60.0 期末40.0)
配当額	(億円)	105	108	108	125	86	86
配当性向		42%	48%	47%	48%	68%	78%
自己株取得	(億円)	21	-	-	-	-	-
総還元額	(億円)	126	108	108	125	86	86
総還元性向		50%	48%	47%	48%	68%	78%
減価償却額	(億円)	229	225	229	239	270	275
設備投資・投融資額	(億円)	328	369	423	356	394	470
有利子負債残高	(億円)	1,121	1,343	1,382	1,370	1,697	1,880
ネットDELシオ		0.40倍	0.42倍	0.42倍	0.40倍	0.50倍	0.56倍
<b>ROIC</b>		<b>7.8%</b>	<b>6.6%</b>	<b>6.8%</b>	<b>7.3%</b>	<b>6.7%</b>	<b>3.3%</b>
<b>ROE</b>		<b>10.3%</b>	<b>9.1%</b>	<b>8.8%</b>	<b>9.4%</b>	<b>4.4%</b>	<b>3.8%</b>

# 2024年度に向けた業績改善策

2021年度の過去最高益更新以降、経済環境の変化により、2023年度も減益予想  
業績改善策を実施し、2024年度の業績回復を見通す

営業利益 推移

単位：億円



(セグメント別内訳)

電子・先端プロダクツ	187	180	115
ライフイノベーション	155	144	125
エラストマー・インフラソリューション	△35	△11	△75
ポリマーソリューション	79	△12	10
その他/消去差	15	23	15



## ■ 2023年度は過去最高益の2021年度と比較し、数量差・コスト差が大幅悪化

営業利益 単位：億円	2021年度 実績	2023年度 今回予想	増減	※ 新型コロナ検査キットによる増減				
				数量差	売価差	変動原価差	コスト差等	為替差
電子・先端プロダクツ	187	115	△ 72	△100	+108	△ 66	△ 58	+ 44
ライフソリューション	155	125	△ 30	+170	△166	※ △ 8	△ 26	△ 1
エラストマー・インフラソリューション	△ 35	△75	△ 40	△100	+209	△ 133	△ 33	+ 18
ポリマーソリューション	79	10	△ 69	△ 34	+ 29	△ 26	△ 35	△ 4
その他 / 消去差	15	15	△ 0	+ 3	-	△ 4	△ 0	-
合 計	401	190	△ 211	△ 61	+180	△ 236	△152	+ 58
ライフソリューション除く合計				△231	+346	△ 229	△126	+ 59

スプレッド良化

2023年度は過去最高益の2021年度と比較し数量差・コスト差が大幅悪化

2024年度は、業績改善策を実施し、業績回復を目指す

■ 販売・生産体制の最適化に加え、  
 抜本的なコスト対策として全社コストダウンプロジェクトを発足し、徹底的なコストダウンを実施する

業績改善策

	数量差	コスト差
--	-----	------

xEV、半導体関連製品の需要回復

前経営計画「Denka Value-Up」での  
 先行投資による能力増強で需要回復を  
 確実に捉える

次世代通信向け有機低誘電材料上市  
 (2030年度 売上高100-150億円)

LDM:低誘電有機絶縁材料「スネクトン」、  
 LCPフィルム (液晶ポリマー)、他

全社コストダウンプロジェクト発足

電子・先端プロダクツ

ライフイノベーション

G47Δ製剤の生産体制確立による販売増  
 (2030年度 売上高700億円)

社外コンサルの知見も積極的に取り入れた  
 包括的全社プロジェクトを発足

エラストマー・  
 インフラソリューション

クロロプレンゴム事業の最適化

需要動向を見極めた販売・生産体制の最適化

ポリマーソリューション

民生需要の回復

スチレン系製品の  
 マーケット規模に合わせた販売・生産体制の最適化

「Mission2030」の目標達成に向けた、注力分野での積極的な先行投資案件が稼働予定  
 「化学の力で世界をよりよくするスペシャリストになる」ことを目指す

戦略投資 8か年計画3,600億円

	2023年度以前	2024年度	2025年度	2026年度以降
ICT & Energy	球状アルミナ増強 (2022年4月稼働済) 投資額：40億円	球状シリカ増強 (上期稼働)	窒化珪素増強 (上期稼働)	アセチレンブラック タイでの新規製造拠点 (2026年下期稼働) 投資額：4億米ドル
	セラミックス基板増強 (2023年下期稼働) 投資額：40億円	放熱シート移転新設 (上期稼働) 投資額：17億円	LCPフィルム設備稼働 (液晶ポリマーフィルム)	M to A投資 大牟田工場での導入 (2026年上期稼働) 投資額：67億円
		「スネクトン」製造販売開始 (LDM:低誘電有機絶縁材料) (上期開始)	TBM設備稼働 (半導体製造工程用仮固定接 着材)	「スネクトン」投資予定 (LDM:低誘電有機絶縁材料)
		エミッター増強 (下期稼働) 投資額：10億円		
Healthcare	インフルエンザワクチン増強 (2022年3月稼働済) 投資額：160億円	臨床試薬・検査キット増強 (下期稼働) 投資額：110億円	G47Δ製剤増強 (①第1段:2025年度末、②第2段:2027年度下期) 投資額：120億円	
Sustainable Living	MS樹脂増強 (2021年7月稼働済) 投資額：27億円		ポリエチレン製排水管 「トヨドレン」移転新設 (上期稼働) 投資額：23億円	M to A投資 青海工場への展開
	ケミカルリサイクル (2023年下期稼働) 投資額：38億円			炭酸化混和材 「LEAF」投資予定

各項目の詳細は次ページ以降に記載

## ICT &amp; Energy ①

アセチレンブラック  
タイでの新規製造拠点  
(2026年下期稼働)  
投資額：4億米ドル

- ・用途：xEVのリチウムイオンバッテリー、洋上風力発電の高圧送電線ケーブル
- ・急拡大するアセチレンブラックの需要に対応すべく、SCG Chemicals Public Company社との共同出資で製造販売事業を行う合弁会社を設立、年間11,000トンの生産能力を有するプラントの建設を決定
- ・稼働開始：2026年下期 投資金額：400百万USドル 出資比率：デンカグループ60%、SCG社40%

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1164/20231010\\_denka\\_abjv.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1164/20231010_denka_abjv.pdf)

窒化珪素増強  
(2025年上期稼働)

- ・用途：xEVのインバータ用パワーモジュール向け絶縁基板、トラクションモータ用ベアリングボール
- ・xEV市場で必要とされる「放熱性、軽量化、高剛性、長期ライフタイム」を満たす確かな品質と高いコストパフォーマンス
- ・旺盛なxEV市場要求に応えるべく更なる増強を進める（稼働開始：2025年度）

球状シリカ増強  
(2024年上期稼働)

球状シリカ シンガポール製造設備の増強を決定～環境・エネルギー分野のさらなる成長に向けて製造能力を約3割増強～

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1016/20220511\\_denka\\_dapl\\_silica.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1016/20220511_denka_dapl_silica.pdf)

球状アルミナ増強  
(2022年4月稼働済)  
投資額：40億円

球状アルミナのシンガポール新生産設備が本格稼働～生産能力を約5倍増強し、xEV・5G向け放熱材料を強化～

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1017/20220511\\_denka\\_dapl\\_alumina.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1017/20220511_denka_dapl_alumina.pdf)

放熱シート移転新設  
(上期稼働)  
投資額：17億円

5G・xEV向け放熱シートの新規生産設備を渋川工場へ導入し、生産能力を約2倍に増強～電子材料の中核生産拠点と位置づけ、スペシャリティ事業をさらに強化～

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/970/20211125\\_denka\\_shibukawa.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/970/20211125_denka_shibukawa.pdf)

## ICT &amp; Energy ②

セラミックス基板増強  
(2023年下期稼働)  
投資額：40億円

- ・用途：xEVのインバータ用パワーモジュール向け絶縁基板
- ・窒化珪素粉～セラミックス板～銅張回路基板まで一貫製造している唯一のメーカー、かつ窒化アルミ、窒化珪素の2品種をラインナップする唯一のメーカーであり、高性能化に向けた要求特性へ柔軟な対応が可能。
- ・車載の需要増加に対応すべく増強（2023年度下期に2倍にするなど更なる増強を計画中）

エミッター増強  
(2024年下期稼働)  
投資額：10億円

- ・用途：半導体材料・デバイスの表面観察用途（ウエハ検査、マスク検査など）および半導体製造リソグラフィ工程などでの回路パターン作成用途
- ・半導体の微細化・微小化により、数 $\mu\text{m}$ の電子線を放出できるエミッターの需要が拡大。拡大する需要に対応すべく増強

「スネクトン」  
(LDM:低誘電有機絶縁材料)

- ・用途：銅張積層板（CCL）、層間絶縁材料向け基材
- ・エチレン-スチレン-ジビニルベンゼンからなる熱硬化型の材料で、軟質系材料の課題である耐熱性や誘電特性を解決。高速通信用リジット基板の基材や層間絶縁材として、採用評価が順調に進む。樹脂材料と無機フィラーどちらも製造している唯一のメーカーである強みを活かし、樹脂・フィラー混合体であるワニスとの独自提案も。

LCPフィルム  
(液晶ポリマーフィルム)

- ・用途：フレキシブル銅張積層板（FCCL）向け基材
- ・LCPは、フィルム化することが非常に難しい樹脂であるため、安定的に供給できるメーカーが限られているが、当社は電子包材や食包シート事業にて培った有機系材料の成膜技術を応用し、量産性や膜厚制御に優れるTダイ法にてフィルム化する技術を確立。高速通信用のフレキシブル回路の基材として期待。

TBM  
(半導体製造工程用仮固定接着材)

- ・用途：半導体製造工程のウエハを薄化するバックグラインド工程における仮固定耐熱接着剤
- ・ウエハの回路面保護および装置への固定にはコスト、簡便性から当社エレグリップのようなテープでの仮固定が主流。一方、超薄膜や硬脆いなど難研削ウエハの加工ではハンドリング性向上のため接着剤での仮固定が採用傾向。加えて、パウデバイスなどの次世代半導体製造ではバックグラインド後の研磨面に高温処理するため、テープでは耐熱性不足のため対応できず、耐熱接着剤の市場拡大が期待される

## Healthcare

## G47Δ製剤増強

①第1段:2025年度末、  
②第2段:2027年度下期  
投資額：120億円

- ・G47Δは世界で初めて承認された「悪性神経膠腫(脳腫瘍)」を対象としたウイルス製剤
- ・海外展開や他のがん種での臨床研究など、今後の急激な需要拡大に備え、増強を決定
- ・稼働開始：①第1段階:2025年度末、②第2段階:2027年度下期
- ・投資金額：約120億円、
- ・2030年売上高700億円目標

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1120/20230412\\_denka\\_g47.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1120/20230412_denka_g47.pdf)

臨床試薬・検査キット増強  
(2024年下期稼働)  
投資額：110億円

約 110 億円の戦略投資により抗原検査キットを含む検査試薬製品の生産能力増強を決定  
～ヘルスケア事業をさらに強化し、世界の感染症対策に貢献～

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1013/20220414\\_denka\\_gosen.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1013/20220414_denka_gosen.pdf)

インフルエンザワクチン増強  
(2022年3月稼働済)  
投資額：160億円

- ・インフルエンザワクチンの原液新棟を稼働し、従来比2倍の生産能力へ増強
- ・従来は製造株の違いに生産量が左右されていたが、生産能力の向上により市場にいち早くワクチンの提供が可能

[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/789/20201116\\_denka\\_gosen.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/789/20201116_denka_gosen.pdf)

## Sustainable Living

M to A  
(メタン to アセチレン)投資  
大牟田工場での導入  
(2026年上期稼働)  
投資額：67億円

⇒ 青海工場への展開

- ・CO<sub>2</sub>排出量削減を目的に、米国のベンチャー企業であるTransform Materials社が保有するメタンからアセチレンを製造する新製法の設備を大牟田工場へ導入。本技術の実証とアセチレンの大型量産の実現に向けた技術改良に関する共同研究を実施。
- ・当社特有の水力発電を持つ青海工場のカーバイドチェーンに、大牟田工場にて量産技術を確立させたM to Aを展開することで、低炭素なクロロプレンゴムの実現と、製造過程で副産物として得られる水素エネルギーの活用へ繋げる。
- ・現製法（カーバイド法）からの製法転換 及び、水素の活用によりCO<sub>2</sub>約30万トンの削減を見込む
- ・稼働開始：2026年上期
- ・[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1153/20230809\\_denka\\_mtoa2.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1153/20230809_denka_mtoa2.pdf)

ケミカルリサイクル  
(2023年下期稼働)  
投資額：38億円

- 使用済みポリスチレン樹脂のケミカルリサイクルプラント建設を決定  
～SDGs 達成に向け、廃プラスチックの再資源化による脱炭素・循環型社会の構築を目指す～  
[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/981/20220111\\_denka\\_ps\\_chemical\\_recycle.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/981/20220111_denka_ps_chemical_recycle.pdf)

炭酸化混和材  
「LEAF」

- ・世界で唯一実用化されているカーボンネガティブコンクリート「CO<sub>2</sub>-SUICOM」のキーマテリアル
- ・本格的な普及を目指し、鹿島建設、竹中工務店、当社の3社を中心とする55社のコンソーシアムにて、NEDOのGI基金事業に共同提案し、採択
- ・コンソーシアムで開発したコンクリート「cuco-建築用プレキャスト部材」が2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）の仮設建築物の基礎部材として適用。2022年度の土木構造物での適用に続き、実際の建築物への適用は今回が初めて。
- ※竹中工務店社リリース <https://www.takenaka.co.jp/news/2023/10/04/>

MS樹脂増強  
(2021年7月稼働済)  
投資額：27億円

- シンガポール拠点で高機能透明樹脂（MS樹脂）の増産設備を竣工～年間生産能力を約14万トンに倍増し、スペシャリティー事業を強化～  
[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/896/20210708\\_denka\\_singapore\\_msresin.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/896/20210708_denka_singapore_msresin.pdf)

ポリエチレン製排水管  
「トヨドレン」移転新設  
(2025年上期稼働)  
投資額：23億円

- ポリエチレン製排水管「トヨドレン」約23億円の戦略投資により生産能力を増強  
～農地整備や河川の治水などインフラ強化・災害対策に貢献～  
[https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1066/20221011\\_denka\\_toyodrain.pdf](https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/1066/20221011_denka_toyodrain.pdf)



## 品質・安全に関する事案についての今後のスケジュール

東洋スチレン（持分法適用関連会社） および当社の樹脂製品における 第三者認証等の不適切行為	公表予定 2023年12月	<ul style="list-style-type: none"><li>外部調査委員会による調査中</li><li>外部調査委員会の報告書に加え、報告書の提言を基に当社で実施する対応策を公表予定</li></ul>
青海工場における死亡災害	公表予定 2024年1月	<ul style="list-style-type: none"><li>事故調査委員会による調査中</li><li>事故調査委員会の報告書にて、事故調査委員の提言を基に当社で実施する再発防止策を公表予定</li></ul>

調査結果の公表と合わせて、経営責任も明確に致します。

全ステークホルダーからの信頼回復に向けて、  
デンカグループ一丸となって今後一層のコンプライアンスと安全の強化に努めて参ります。



売上高 単位：億円	2022年度 実績	2023年度 今回予想	増減	数量差	売価差
電子・先端プロダクツ	935	900	△ 35	△ 73	+ 37
ライフイノベーション	475	450	△ 25	△ 23	△ 3
エラストマー・インフラソリューション	1,238	1,200	△ 38	△ 94	+ 55
ポリマーソリューション	1,276	1,300	+ 24	+ 42	△ 17
その他 / 消去差	151	150	△ 1	△ 1	-
合 計	4,076	4,000	△ 76	△ 148	+ 73

営業利益 単位：億円	2022年度 実績	2023年度 今回予想	増減	数量差	売価差	コスト差等
電子・先端プロダクツ	180	115	△ 65	△ 34	+ 37	△ 68
ライフイノベーション	144	125	△ 19	+ 11	△ 3	△ 27
エラストマー・インフラソリューション	△ 11	△ 75	△ 64	△ 55	+ 55	△ 65
ポリマーソリューション	△ 12	10	+ 22	+ 3	△ 17	+ 36
その他 / 消去差	23	15	△ 8	△ 9	-	+ 1
合 計	323	190	△ 133	△ 83	+ 73	△ 123

売上高 単位：億円	2021年度				2022年度				2023年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想 (3Q・4Q)
電子・先端プロダクツ	210	228	223	240	219	256	223	238	192	225	483
ライフソリューション	60	193	109	99	64	155	169	88	72	150	228
エラストマー・インフラソリューション	246	268	261	293	304	325	316	293	280	292	628
ポリマーソリューション	318	315	295	339	316	320	303	337	298	317	685
その他 / 消去差	35	40	40	37	41	29	47	34	37	51	62
合計	867	1,044	928	1,009	944	1,086	1,058	988	878	1,035	2,086

営業利益 単位：億円	2021年度				2022年度				2023年度		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	下期予想 (3Q・4Q)
電子・先端プロダクツ	44	48	46	49	41	56	41	42	21	28	66
ライフソリューション	3	104	12	36	5	60	50	28	9	57	59
エラストマー・インフラソリューション	1	△0	△12	△23	△2	15	△13	△11	△7	△9	△59
ポリマーソリューション	26	18	19	16	△1	△0	△9	△1	△0	△2	13
その他 / 消去差	4	5	4	2	6	4	9	4	5	5	5
合計	77	175	70	79	49	134	78	63	28	77	85

## 業績予想の適切な利用に関する説明

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

世界に誇れる、化学を。

# Denka

本資料に関するお問い合わせ先

デ ン カ 株 式 会 社  
コーポレートコミュニケーション部

---

TEL

03-5290-5511

URL

<https://www.denka.co.jp>